



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.43
六甲山と外国人たち
/田井玲子
2006年10月発行



明治中期の外国人居留地

第43回テーマ： 六甲山と外国人たち

講演内容

- ①神戸と外国人居留地
- ②六甲山をめぐる多彩な活動
- ③新種のカタツムリ・
青い目の人形

実施日：平成18年10月21日（土）
午後1時～3時45分
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師 たい れいこ 田井 玲子さん
プロフィール

1955年生まれ、広島大学文学部史学科国史学専攻卒業。神戸市立博物館学芸員。専門は近世・近代日本史。

午前中は着々とササ刈り

秋晴れの空の下、今月も近畿自然歩道のササ刈りを進めました。前回整備した散策路は明るくなり、植物の出現が楽しみです。整備には12名が参加されました。2回目のササ刈りでコツを掴んできたのか、予定を上回るペースで進みました。

以前から問題にしていた、坂道や路肩の崩れやすいところには森林整備事務所によって丸太で補強がされて、歩きやすくなっていました。



近畿自然歩道の斜面のササ刈り

次々と探求を広げる田井さん

セミナーの講師は、神戸市立博物館の田井さんです。田井さんは博物館が設立される前の準備室当時から勤務されています。神戸の開港からの歴史、ギュリキマイマイ、青い目の人形など、時代考証を踏まえたしっかりとしたお話が聞けました。田井さんは歴史だけでなく、自然分野にも探求を広げておられ、セミナー当日はスミスネズミ捕獲隊にも参加されるということでした。

神戸開港以来の外国人の活躍

神戸の開港の歴史を知り、明治から大正時代の神戸の外国人の活躍ぶりを知りました。スライドでは明治時代の神戸や六甲山の写真を見せていただき、昔の様子がよくわかりました。

青い目の人形のお話では、戦前の日米友好を図る草の根の市民活動を知り、忘れてはならない歴史のひとこまを見直すことができました。

六甲山開発を担った居留地の外国人

外国人による六甲山の開発は神戸開港に端を発するというお話で、居留地の生活文化と、六甲山との結びつきを深く理解することができました。

私たちも、ただ六甲山に上るだけではなく、現在目に触れるものの背後にあるものを知った上で、六甲山の活動に取り組みたいと、思いを新たにしました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 宮本 和子さん

六甲山の多彩な活用・新種の生物の発見など、来日した外国人の活動振りを資料をもとに丁寧に説明していただいた。海上から或いは高台から撮影された写真、外国人居留地・モダンな白い税関の建物・扇形をした港の様子など、その頃の神戸の姿に見とれた。

世界児童親善会の設立と友情の人形交流に尽力されたシドニー・ルイス・ギュリック氏の遺骨は祖父母の眠られる神戸の外国人墓地に埋葬されたことに感銘を受けた。

【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、コベルコ環境保全基金、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会